

次に、議席3番、須藤信吉君。

〔3番 須藤信吉君登壇〕

○3番（須藤信吉君） 午後の一般質問ということで、傍聴席も大分空席が目立ちますけれども、眠いと思いますけれども、60分ということで一般質問をやりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、皆さんこんにちは。また、傍聴席の皆さんにおかれましては、午前引き続きご苦勞さまでございます。議席番号3番、須藤信吉でございます。ただいま議長より発言の許可がおりましたので、通告書に基づき3点、4項目を質問させていただきます。執行部の誠意あるご答弁よろしく願いいたします。

最初に、（1）、染谷川改修事業についてですが、平成20年度も改修事業費として1,895万という予算が組まれております。この改修工事の進捗状況報告をお願いいたします。

また、2番、染谷川周辺は今後開発が相当予想されると思います。現在においても冠水が数カ所発生しております。このような状況において、冠水対策がどのようにとられているのかお伺いしたいと思います。

次に、2番、プラスチッククーポン券についてですが、第1回目の結果について当初目標とされていた消費者の利便を図るとともに、低迷をする消費者需要の喚起、個人消費の拡大、さらに消費流出防止による町内商業活性化と境町の振興を図るといった目的で多分されたと思います。この件についてもその経済効果がどのように出ているのか答弁をお願いいたします。また、2回目を実施されますが、その状況報告書もお願いいたします。

前回12月の町長答弁において来年度、これは3回目です、商工会はとても予算が組めないような話がされていたという答弁もありました。この件についてもどのような対策がとられて、第3回目計画されているのか。町としても3回目の予算が450万計上されております。この辺についても検討された範囲で結構ですので、よろしく願いいたします。

次に、今後の公共下水道計画について。長田地区におかれましては、設置されていますのが農集排水、蛇池、下砂井、栗山、また現在進められている公共下水、長井戸、猿山地区となっています。西泉田、上小橋の一部のみがまだ残っております。今後の計画についてお聞かせいただきたいと思っております。

以上3点、4項目、ご回答をよろしく願いいたします。

○議長（田山文雄君） ただいまの質問の1項目めに対する答弁を求めます。

産業建設部長。

〔産業建設部長 齊藤時雄君登壇〕

○産業建設部長（齊藤時雄君） それでは、須藤議員さんのご質問にお答え申し上げます。

初めに、染谷川改修事業につきましてのご質問でございますが、この染谷川は昭和49年に準用河川として国の指定を受け、昭和50年より事業認可をいただき、事業に着工してまいりました。現在までに全体面積延長が2,360メートルのうち約560メートルの区間、約24%が整備済みとなっております。用地取得につきましては、全体計画の約80%が買収済みとなっております。平成29年度までにはすべての工事が完了するという事業計画で取り組んでいるところでございますので、よろしく願い申し上げます。

次に、染谷川周辺の冠水対策についてのご質問であります。染谷川周辺の冠水対策としては染谷川

の改修が不可欠でありますので、早期完成に向けて最善の努力をしまいにしたいと考えております。また、冠水につきましては染谷川周辺もありますけれども、町内13カ所で冠水するところがございます。しかしながら、その冠水につきましても約1時間、前にも町長のほうから答弁がございましたように、雨量の関係もございますが、ある程度近年は1時間ぐらいの冠水時間で、今までも床上浸水までいったところはございません。床下が町内で2件ほど3年前にございましたが、今は床下にも浸水するような状況はなく、道路冠水だけでとまっているような状況でございます。また、周辺の大きな開発についてでございますが、この開発につきましては自宅におきましても開発におきましても雨水については宅内排水ということ、宅内処理ということが義務づけられております。また、大きな工場、企業等につきましては調整池を設置してのオーバーフローでの雨水処理ということになっておりますので、このような条件は開発行為の事業者に対しても今後も指導した中で行っていきたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（田山文雄君） ただいまの答弁に対し質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） ただいまの答弁におかれまして、改修工事、昭和49年から始まっているということでもありますけれども、現在私染谷川の水路を農協の跡地から下ってきまして、染谷川の機場、それからまた戻りまして354から一ノ谷の排水路、これを全部歩いて見てきたのですけれども、実際にこの改修工事がどのようにされるのか。あとは、その用地買収が80%完了済みとなっておりますけれども、その辺において今現在の染谷川の状態、状況がひどい状態だと思うのです。まず、あの辺の整備は、清掃整備かな、その辺のものも考えられているのか。ということは、今部長から答弁がありましたけれども、冠水しても1時間ぐらいで冠水は解除されると。でも、これが冠水するたびにあそこに役場の職員も出勤しなくてははいけなんでしょうし、その辺のもの、地元の人もあの冠水が予算をとられているけれども、どのように対応をとっていただけるのか、この辺も大分心配されています。特に旭化成の住宅入り口かな、ちょうど境警察から5差路へ来る町道から旭化成の住宅用地に入るところ、あそこは多少の雨でも冠水してしまうと、そのような状態でございます。多分六、七年前に1度あそこ、私どもの言葉では堀ざらいというのですけれども、もう汚水を取っていただいた、汚泥を取っていただいて引きはよくなったということも聞かれております。その辺の状況と染谷川の周辺の開発、松上線が今計画をされて、一部着工されております。それが聞いたところ、土木事務所の話によりますと、平成21年度までには5差路から境警察の町道までは一応完成させたいということも聞いております。その先の三百何メートルかな、それも一応用地買収ができれば連続でやりたいと、これも数年のうちにはできれば完成したいという報告も受けています。そうなりますと、雨水関係のものも、あとはこの先圏央道のインターチェンジができます。その辺においての雨水の処理、これは調整池をつくって、オーバーホールをしたものについての水の処理だと思いますけれども、その辺も私どもあの近辺に住んでいる者については心配をされております。この辺について答弁をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（田山文雄君） 産業建設部長。

○産業建設部長（齊藤時雄君） お答え申し上げます。

染谷川機場から染谷川の分流までの区間につきましては工事完了しております。それから、今後あの改良をされていないというご質問でございますが、今そのために改良しているわけでございます。やは

り皆様をご存じのように、旭化成住宅のところでございますが、皆様方がご存じのようにあそこは水田ということで、あそこを基点にして水が集中してあの周辺に集まっていた状況がございます。ただ、人家も建ちまして、住宅地で埋め立てられた中での染谷川でございますので、冠水する条件が整っているところでございます。ただ、今染谷川の質問でございますが、染谷川については昭和50年に、先ほど354から上の橋ということで質問がございましたけれども、上の橋から若・境線まで、354の上の橋から若・境線までの事業認可になってございます。その上については、準用河川ということでは指定はされておりますが、工事区間としては入っていないところで、そこに松上線ができるという条件になっております。ただ、町としまして先ほど一千八百万という予算を国庫補助を受けた中で行っているわけですので、この事業につきましても早期完成ということが町としても重要課題ということで今考えております。今のところ用地買収が旭化成の下の染谷分の買収だけということになっております。しかしながら、この改修事業につきましては354橋のかけかえという大事業もございまして、それからきのうございました富張重機さんと、それとそば屋さんのところが橋をかけかえたときには、勾配がついて中に進入できないような条件にもなってきますので、やはり今後につきまして県と打ち合わせした中、調整した中で進めなくてはならないかと思うところでございます。しかしながら、河川改修につきましては県、国の指導としますと、流末を先に直してから、それから上流に上がってくる工事ということが義務づけられておりますので、なかなかそちらのほうの条件等が整わない限り事業が進まない条件もございまして、しかしながら、町としまして先ほど議員のほうから質問がございましたように、冠水の多いところでございますので、その解消のためにも染谷川改修ということが不可欠、必要でございますので、今後とも十分そういうものを考慮した中で進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（田山文雄君） そのほかありませんか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） この染谷川に対しての冠水ということに対して、私が住んでいます上小橋地域ですか、この辺については雨が降るたびにもう心配をしていると。あとは、車をどこへ置こうかということも考えられています。陽光台の団地の入り口のところも、もうひざ下はいつも発生すると。あとは、染谷川から陽光台の団地、公園があります。あそこに排水路があると思うのですけれども、その土手が切られて、排水路をつくったためにその土手が切られていると思うのです。あそこの辺からも水の流れ、その引きぐあいですか、引きの関係も大分影響してくると。ですから、あの辺のものの冠水対策というものが一日も早くやってほしいというのも出ています。ですから、町としても予算もあるから、その辺については計画的にはされるけれども、町長がよく答弁されていますけれども、お金があれば何でもやってあげるといことも聞いていますけれども、それはそのとおりだと思うのですけれども、実際に雨が降ったときにそういう心配をしなくてはいけないということで、町長が言われています安全、安心の町づくりに対しては早急にやっていただきたいなと思っております。

あとは、私も疑問に思いますのは、陽光台団地の端の都市計画道路、日本板金のところですか、あそここのところから354の上小橋のところまで用地買収をしていると思うのですけれども、日本板金のところの排水の、都市計画道路がかんていますから、なかなか難しいと思うのですけれども、あそこのマンホールの入り口の部分が最初は対策をとって囲いをつくって網を張ったと思うのですけれども、今は壊

れていまして、冠水するとあそこに対してごみが付着をして流れが悪くなるのではないかなと心配も聞いております。その辺の対策、冠水対策においては染谷川の維持管理かな、これもちょっと見直していただきたいなと思っております。(1)については、もしこれについて清掃関係かな、維持管理について何か対策が考えられたのであれば、答弁をお願いいたします。

○議長(田山文雄君) 答弁を求めます。

産業建設部長。

○産業建設部長(斉藤時雄君) お答え申し上げます。

須藤議員さんのほうから言われております日本板金のところの排水でございますが、これにつきましては陽光台事業の中で染谷川改修、築堤が進みまして、ちょうどあそこが分岐点になってございます。町長のほうからも言われているのですけれども、あそこについてはボックスカルバートか何かで真っすぐ抜けられるようなものを早く措置すれば、ある程度の改修はできるのではないかと私のほうでも考えているところでございますが、先ほど申しましたように、県の指導として流末のほうからの工事着工ということが強要されておりますので、なかなかその辺が進まないところで、安全管理につきましてもちょうど曲がっておりますので、染谷川を刈ったときのヨシとかが詰まってしまうような状況もございません。しかしながら、あそこは旭化成、石塚硝子のほうからも流れてきまして、3方から流れて水が噴き出しているようなところでございます。その中で改修ということは今後も研究した中で進めて、安全管理に努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくご理解のほどお願い申し上げます。

○議長(田山文雄君) いいですか、では。

これで須藤信吉君の1項目めの質問を終わります。

続いて、質問の2項目めに対する答弁を求めます。

産業建設部長。

[産業建設部長 斉藤時雄君登壇]

○産業建設部長(斉藤時雄君) それでは、プラスチック事業につきまして、消費者の利便を図るとともに、低迷する消費需要の喚起や個人消費の拡大、さらに消費流出防止による町内商業活性化を図るため、境町商工会が事業主体となり、町が助成する中で進められている商品券発行事業でございます。この事業は、ことしで議員さんのほうからもありましたように、2年目でございます。この事業に対しまして町民の関心の高さや期待を感じているところでございます。昨年度の反省を踏まえた中で、発売日を11月19日と早めるとともに、宣伝に努めてまいり、昨年よりも1カ月早い期間に全戸配布しました。販売状況も昨年同様、年内にはほぼ完売しております。なお、今年度アンケート調査をした中で、町内の個人商店を利用するきっかけになったとの答えが57.4%になっております。また、予算をふやして買った、予定外のものも買ってしまったとの回答が46%に達しております。消費誘発として、新たな商品や高価な商品購入につながっているものだと考えられます。今後の町商店街活性の対策であります。クーポン券事業とあわせて一店逸品運動、個々の宣伝の特色性を持った事業でございますが、などと連携を持った中で関係団体とともに町活性化の有効な手段を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

それと、先ほど質問の中にもありましたが、町で450万、3回目の20年度にとっているということですが、いろいろ町でも財政的に厳しいところでございます。商工会でもこれについては一般事業と

して一般予算の中では対応できなく、あくまでも基金取り崩しの中で行っている状況でございますので、商工会の予算と、それからこの参加者の人たちの負担ぐあいの中で今後も進められるのではないかと町では予算化したわけでございますので、商工会事業でございますので、実施するに当たっては町としては後援していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（田山文雄君） ただいまの答弁に対し質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） 今産業部長の説明の中に商工会のほうでも予算が厳しいと、基金を取り崩していると、これは12月の町長答弁の中にも入っております。これは3年計画ということで、3年計画を持っていたら、町にも協力をいただければ商店街の活性化、その何らかの多少なりのきっかけになるということになったと思うのです。今の答弁を聞いていますと、商工会のほうでその予算がもうちょっと底をついていると。でも、私なんかを考えますと、助成金をとらずに町の商店街の人たちで資金を集めてこの商店街を何とかしようという意気込みにおいてのものであれば、もっと考えは違ったのかなと。マスコミなんかでも、商店街についてはシャッター通りと言われておりますけれども、場所によってはそのシャッター通りを何らか復元をされて、用途変更とかもして対策をとっていると思うのです。せっかくこのプラスクーポンで商店街の活性化を図ろうということ、それで町も協力したわけですから、この辺の明るい前に進んだ報告をしていただきたいなと思っております。

それで、今これを臨時議会で決議をして、協議会をやったと思うのです。そのときにはそれなりの要望が出されて、本当にこれは明るく、カンフル剤になるのかなということもされました。それで、決算収支について一部資料をいただきまして、1回目は取扱店が279店舗あったと。これを交換した201店舗あったということで、72%のお店が使われたとの書類がこれ来ております。それで、2回目、これは今現在途中ですから、1月の16日の集計に基づいていきますと、登録店数が266店、それでこれを取り扱った件数が109店、40.97%という数字がこれは出ています。そうしますと、券は売れたけれども、これについての効果が出ていないのではないかなと。それとともに、今商工会での資金が不足をしていると、これはちょっと話が逆ではないかなと、これを起爆剤にして商店街の活性化を図ろうとしたと思うのです。それが資金的にもう底をついて、3回目は難しいからと、こうされますと、では何のために臨時議会を開いてスタートさせたかなと。この辺について、当然この運用については商工会がやっていますけれども、町の商工課も入っていますので、それについてできれば町長のほうの答弁をお願いいたします。

○議長（田山文雄君） 答弁を求めます。

町長、野村康雄君。

○町長（野村康雄君） このクーポン事業につきましては2年実施いたしました。1年目がいろんな分析をされておりましたけれども、ことしの分析はまだ私正直見ていないのです。それで、一昨年実施したことで、去年は坂東市でもやはり1億円ぐらいたったということで、何かこれも完売したという話を聞いております。そういう中では、一応の効果といいますか、今のデータを見ましても地元の商店街を利用してくれる人もふえたということで、これは3年計画というのは3年やってみてきてから、それが結果として地元商店に還元される、あるいは商店を知っていただく、そういう効果はそれなりにあるのかとは思っております。商工会も資金不足で、正直言いまして基金を取り崩して取り組んでいたということで、ことしは3年目をやることなのでしょう、決定しているのでしょう、これは。

〔「議員さんのほうでやらないのかと言われただけで、私はやらないというのは聞いていないです」と言う者あり〕

○町長（野村康雄君） やらないということはないと思います。ただ、私はこの間に商工会長ともこの前話したのですが、これは子育て支援政策と一体にならないかと。いわゆる子供の、小さいお子さんのいる家庭の人たちが優先とか、あるいは県でやっている、カードを発行しています、そういう店とのタイアップも含めて、子育て世代の支援策と商業の活性化というものは組み合わせることできないかと、こういう研究をしてみましょうという今提案をさせていただいています。町のほうでもこれをぜひ検討していく中で、これは予算の関係もありますけれども、そういうものを含めて一緒にやっていけたらと思っています。ただ、いずれにしてもお金がかかることですので、こちらのほうも相談していかなければならないのですけれども、県のキッズ・カードと提携をして子育て支援、これで1割、向こうでまた5%安くなるかと、2つの効果があらわれてきますので、そういうものも含めて今後は研究をしていきたいと。ことしは、3年目実施した結果を踏まえながら、今年度中にはそういう研究をしていきたいと、こう考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいと存じます。

○議長（田山文雄君） 質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） 結局はクーポン券が完売できたということで、それは一つの成功と思われますけれども、1年間の流れとしてキャパシティを見たときに、12月から3月までの購買力は相当上がったと思うのです。問題は、4月から11月までの購買力が余りなかったのかなという考えも見受けられます。この辺についても、消費者も購買力はまだ持っていると思うのです。その辺において、購買力があるときに町と商工会で、議会のほうも一応三位一体でやって、境町は商業の町とよく言われますけれども、その辺が芽が出るように協力したいと思うので、今後ともよろしく願いいたします。

これで2番目の質問を終わります。

○議長（田山文雄君） これで須藤信吉君の2項目の質問を終わります。

続いて、質問の3項目めに対する答弁を求めます。

上下水道部長。

〔上下水道部長 戸張富雄君登壇〕

○上下水道部長（戸張富雄君） それでは、私のほうから須藤議員さんの質問について、今後の公共下水道計画についての質問にお答えいたします。

公共下水道事業計画は、平成2年度から利根左岸さしま流域下水道事業として開始され、境町の整備計画は940ヘクタールとなっております。市街化区域の旧町内から整備を進め、現在は市街地に隣接する下小橋、長井戸地域へと整備を進めているところでございます。平成19年度までの認可区域は市街地と長井戸、下小橋の一部区域で438.5ヘクタールでございます。平成19年度までが現在の認可の期限となっておりますので、県の指導を得る中で平成20年度から24年度までの長井戸、猿山、下小橋地区の約124ヘクタールの都市計画決定と事業認可を進めているところでございます。猿島地区を含めた西泉田、上小橋地域地区については、その後町の財政状況等を考慮しながら事業の認可を得る中で進めていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたくお願いいたします。

また、この事業に対する負担割合でございますけれども、事業費の50%が国の補助金、そして残りの

47.5%が町の起債、そして残りの2.5%が受益者負担金となっております。

この下水の幹線につきましてでございますけれども、上小橋、県道若・境線の北側が松岡幹線、また南側が下小橋幹線、西泉田が大歩1号幹線となっております。そのほか合併浄化槽のほうでございますけれども、この補助金につきましては本年度、19年度でございますけれども、10件ありましたので、あわせてご報告いたします。

よろしく願い申し上げます。

○議長（田山文雄君） 質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） 公共下水道の件ですけれども、これはあえて質問させていただきますのは、染谷川とも若干関連があるのです。この染谷川を歩いたときに、蛇池、前のピワ砂付近です、この辺について生活用水が、汚水が流れていると、非常に臭いと地域住民にも話を聞いております。そのものがどこに流れているかということ、最終的には染谷川のほうに入ってきていると。それで、長田地区は農業集落排水、これは蛇池、下砂井、栗山、これは設置されております。それで、現在今公共下水ということで猿山、長井戸地区がされていると。そして、聞きますと長田地区の農業集落排水、3地区の容量はもういっぱいであると。だけれども、あそこに家を新築されている方が結構います。その辺での生活用水が多少入ってきているのかなと。では、あそこにお住まいを持たれた方は、今後下水に対して対応はどうすればいいのか、この点をちょっと聞かせていただければと思います。

○議長（田山文雄君） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（戸張富雄君） お答え申し上げます。

長田地区を中心とする蛇池、境長田北部の農業集落排水事業でございますけれども、若干現在余裕がございます。そういうことなのでございますので、受益者負担金等を納めていただければ接続できることがございますので、ただ若干余裕はございますけれども、議員ご心配のそれが埋まった場合はどうするのかということでございますけれども、合併浄化槽という形の中で接続をお願いしたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

以上です。

○議長（田山文雄君） 質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） 長田地区の農業集落排水については、まだ若干余裕があるということで、私が話を聞いた人と再度話してみたいと思います。

この染谷川と下水道関係、これについても確かに若・境線の下妻街道までの水と、今度は354の一ノ谷の用水路ですか、あの水の差を見ますともう一目瞭然の環境だと思っております。ですから、冬はいいのですけれども、夏になると確かににおいと虫と、その辺の対応。あとは、今度は圏央道のインターチェンジができるということで、あの辺も大分改善されるだろうという希望も持っている人もおります。この辺も今度の圏央道のインターチェンジの開発計画においては、その辺も当然計画の中で準備はされると思います。何よりも公共下水道について、染谷川に流れている水の環境、これを考えていただいて、予算のほうが厳しいということで、西泉田、上小橋においては猿島幹線の道路と一緒に開発をするとい

うことですけれども、その辺のものが見込みとしてどのくらいで今現在見込まれるのか、もしわかれば回答いただきたいと思います。

○議長（田山文雄君） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（戸張富雄君） 上小橋、西泉田地区においての公共下水の施工時期はいつかというご質問かと思うのですが、現在先ほどもご答弁いたしましたように、猿山、下小橋地区が平成20年度から24年度という5年間で実施ということで、そういう計画しております。その後ということでございますので、これは当然町でやりますよという形の中で実施できる状況ではございません。これは、当然国の事業認可を得ていくと、もちろんその前に都市計画の変更、そして国の事業認可という形になっていきますので、少なくとも5年、6年先という形で、今猿島地区を含めてのいろいろ要望等もございますので、そこらの調整というのがございますので、少なくとも五、六年先について相談していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（田山文雄君） 質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） その公共下水の計画ですけれども、きのう齊藤政雄議員からもう大分質問ありまして、内容的にはわかってきたのですけれども、公共下水の接続率が余りよくないと。今度新たに計画するときには、その辺の行政区で受け入れ態勢を先にやっていただきたいと、その接続率のパーセントによって優先順位を決めますよと、その辺についてはどうなのですか。

○議長（田山文雄君） 答弁を求めます。

町長、野村康雄君。

○町長（野村康雄君） きょう予算委員会で説明しましたとおり、今までは市街化から順々にやっていかなければいけない決まりがあったのです、法律が。ですけれども、今度県、国のほうでも優先的につなぐところをやってもいいですよと、例えば飛んでもいいですよと。例えば上小橋抜かして西泉田先やってもいいですよと、本管が通っていればですけれども、通っていなければだめですけれども、そういうことが許可されるようになったのです。したがって、市街化からどんどんやっていくのはいいのですけれども、せっかくお金をかけて、1戸当たりにしたら本当に個人負担だって100万近くかかるわけですから、それはわずか5%ですから、1戸当たりですと、ですから2,000万ぐらいかかる計算になってくるのです。これは、国の補助金が半分来るのですけれども、残りは全部借金でやるわけです。つないでいただけなかったら、稼働してもお金が全然上がってこないという、そういう状況が生まれてきます。したがって、きのう申し上げましたとおり今後の計画については、猿山のほうへもいつか私呼ばれて行ったときをお願いをしたのです。ここを計画するには、積み立てでも始めていただいて、やっぱりそれができたときにはつなげる状況をぜひつくっていただきたいと、それでなければやっても意味がありませんよとお願いしました。内門新田なんかは、もう何年も前から早くやってほしいということで積み立てが始まっている、うちのほうはやってくればすぐつながりますよという体制をとろうとしております。したがって、そういうところは私はやっぱり優先的にやるべきであろうと、このように考えておりますので、今後の計画について5年後、10年後となりますと、計画は私には立てられない部分もありますけれども、とりあえずは長井戸からずっと猿山までは、結城街道のほうは終わります。

こっち、354沿いは下小橋まで進んでいきます。この接続率をまず高めること、町内でもまだ63ぐらいですか。

〔「76%」と言う者あり〕

○町長（野村康雄君） 76までいったそうで、本当これすごく喜びますけれども、前は53%ぐらいしかいってなかったのです。これ毎年運動して、ぜひつないでくださいとお願いをやりながらお願いしているのですけれども、いかんせん金のかかることですから、これは無理にはお願いできないのですが、やっぱり接続率を上げていただかないと、3軒のうち1軒がつないでも、2軒が下水を流していたら環境よくなりませんから、そういうものを含めて今後の優先順位は、私はやっぱり私のほうを先やってくださいよ、必ず接続しますからというところを優先すべきであろうと、このように考えておりますので、ぜひご理解をいただきたいと存じます。

○議長（田山文雄君） 質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） ただいま今現在の公共下水道の接続率が76%という回答をいただいていますけれども。

〔「旧市街地だけ」と言う者あり〕

○3番（須藤信吉君） 旧市街地ですね。そうしますと、本当であれば旧市街地の中で100%というのが衛生に関しては一番敏感なところだと思うのです。住民の密集地域でありますし、この辺で計画的には大体何%の接続率で計算されますと、公共下水道の維持管理においてもなされるのか。

○議長（田山文雄君） 上下水道部長。

○上下水道部長（戸張富雄君） 昨年の9月17日の日曜日なのですが、私どもの下水道課の職員と県の職員で5班体制をつくりまして、約15名近くのです。それで、旧市街化区域なのですが、合計308戸を歩きまして、接続をお願いしております。その中で、どういう理由で接続できないかというお話でございますけれども、一番多いのが何といたしても金銭的理由であると、これが46ありました。その次に多かったのが今のところ接続の意思がないと。どういうことかといいますと、町内の方もなかなか跡取りというのですか、せがれさんとか娘さんも、そういう方が出てしまっていて、なかなか先の見通しが立たないと、そういう中で現在のところ接続しないのだよと、そういう状況でございます。あとは、最近浄化槽を接続したのだというようなのがありました。また、私はアパートに住んでいるからという、当然ですけれども、それは大家さんの責任でございますけれども、そういう状況で、私どもとしても一生懸命やっているわけでございます。

今何%とおっしゃいますけれども、基本的にはもう100%と。100%接続することによって、基本的に現在県に支払う金と使用料で見ますと、大体ほぼ同じぐらいな状況になっておりますけれども、それに今度は人件費を加味しますと赤字という状況でございます。だから、そういう点で早期の、今76%ございますけれども、100%を目指して接続をお願いしたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

○議長（田山文雄君） 質問ありますか。

須藤信吉君。

○3番（須藤信吉君） きょうの質問の中で、1番の染谷川の改修工事、今3番目の公共下水道につい

て、住民の方もそれを望んでおりますので、早期実現できるように町のほうも検討していただきたいと思ひまして、私の質問事項はこれで終わりたいと思ひます。

ありがとうございました。

○議長（田山文雄君） これで須藤信吉君の一般質問を終わります。

